

- 1 実施日時 令和6年4月18日（木）
- 2 対象 3年生
- 3 調査事項 教科調査（国語・数学）、質問調査
- 4 結果分析

（1）学力調査の結果から

- （国語）・平均正答率は、県及・全国平均を大きく上回っている。
 ・「思考・判断・表現」の中では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、いずれも全国・県の平均より高い。
 課題→「意見と根拠など情報と情報との関係について理解する」こと
- （数学）・平均正答率は、全国・県の平均を大きく上回っている。特に「数と式」「関数」「データの活用」の問題は、全国・県の平均を大きく上回っている。
 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国・県の平均を大きく上回っている。
 課題→「筋道を立てて考え、証明することができる」こと

◇2教科とも3つの問題形式（選択式、短答式、記述式）のうち、短答式の正答率が全国・県の平均を大きく上回っている。数学では、選択式でも全国・県の平均を大きく上回っている。

（2）質問紙調査の結果から

- 平日・休日とも、家庭学習に取り組んでいる生徒が多い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に、「あてはまる」と答えた生徒の割合が高い。
- 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちによくなる」と答えた生徒は、全国・県の平均と同程度で、「全くない」と答えた生徒は、0%であった。
- 下校後の学習時間は、全国・県の平均よりやや長く、部活動の参加率や塾・習い事等の利用率は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- スマートフォン等でSNSや動画視聴、ゲームに費やす時間は、全国・県の平均より少ない。
- 「家に200冊以上の本がある」と答えた生徒の割合は多く、「1冊から10冊」と答えた生徒は少ない。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると答えた生徒は8割で、全国・県の平均より高い。
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っているとした生徒の割合は、全国・県の平均より高い。
- 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じている生徒の割合は、全国・県の平均を上回っている。
- 「国語の勉強は好き」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均よりかなり高い。「国語の勉強は大切だと思う」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均に比べてかなり高い。
- 国語・数学とも、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒は、全国・県の平均より多い。
- △ 「自分には良いところがある」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均を下回っている。
- △ 「1、2年生のときにPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均より低い。
- △ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思う生徒の割合は、全国・県の平均より低い。
- △ 「数学の勉強は大切だ」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均よりやや低い。

5 まとめ

学校の授業時間以外に学習に取り組んでいる生徒が多く、全国・県の平均と比べてよく勉強している傾向が見られた。また、スマートフォン等でのSNSや動画視聴やゲームに費やす時間が、全国・県の平均と比べて短いという結果も出ている。平均正答率が全国・県を上回る結果につながっていると考えられる。一方、筋道を立てて証明することや、目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題が見られた。

また、「学校に行くのは楽しい」「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている生徒が多い一方で、「自分には良いところがある」と感じている生徒の割合が低い。

今後、「協同的探究学習」による「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るとともに、ICTを効果的に活用した学習も充実させていく必要があると考える。